

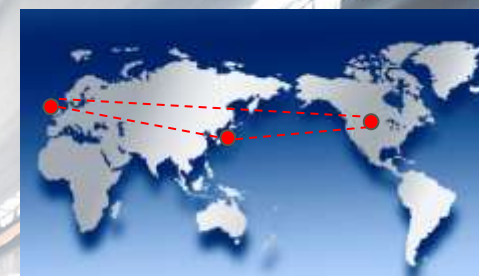
ウィズコロナ／アフターコロナ時代の 人材育成

特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム会長

加藤憲治

自己紹介

- 1976年 富士通株式会社入社 システム部門にて人材育成事業に従事する
- 1988年 オーストラリア駐在 富士通グループ海外人材育成の拠点運営
- 1995年 英、米、日本の3拠点で24時間サポートによるグローバルeラーニングサービス提供を開始
- 2005年 特非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム 理事就任
- 2011年 株式会社富士通ラーニングメディア 代表取締役社長 就任
- 2013年 日本イーラーニングコンソシアム 会長就任、現在に至る
- 併せて マイクロラーニングコンソシアム理事
一般財団法人e-Learning Initiative Japan理事
一般社団法人eラーニングアワードフォーラム実行委員 等を務める



日本イーラーニングコンソシアムのご紹介

日本イーラーニングコンソシアム（eLC）とは

- eラーニングの普及促進、啓蒙を目的に2001年に発足したNPO法人
- 法人会員数：63（正会員：46、準会員：17）、個人会員：14名



eLCの主な3つの活動

- 1) eラーニング関連技術の標準化推進 <SCORM・xAPI・cmi5等>
- 2) eラーニング専門家の育成 <eラーニングプロフェッショナル資格制度>
- 3) eラーニング関連の情報提供 <Webサイト・カンファレンス・市場調査報告>



eLCの重点強化活動

- 1) Future of Learning委員会
- 2) ユーザー委員会
- 3) 会員増強委員会
- 4) 地域拡大委員会
- 5) グローバル推進委員会



環境認識

VUCAワールドの到来

世界はますます

変化が激しく

不確実で

複雑性に満ち

曖昧に

(Volatility)

(Uncertainty)

(Complexity)

(Ambiguity)

デジタル化の潮流は全産業に影響する

(IMD (国際経営開発研究所) ドミニク・テュルパン学長)



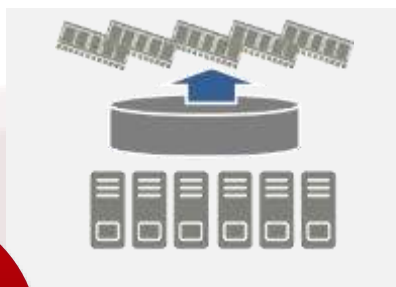
デジタルテクノロジーにより紡ぐ力（変革）が急速拡大

■ テクノロジー視点では、夢や空想していたことが実現できるようになってきた

IoT



ビッグデータ



AI



アナリティクス

新たな
価値創出

大きな変化が予測される



50%

100歳まで生きる



47%

AIが仕事を代替する



2020年代

自動運転車



51%

日本の
生産年齢人口

破壊的イノベーションの波

- 技術は常に、利用者の利便性を高めるために、古来の業界構造を破壊し、既存の仕事を奪いながら進展してきているといっても過言ではない。

UBER



タクシー業界

Airbnb



ホテル業界

3D/IoT



製造業

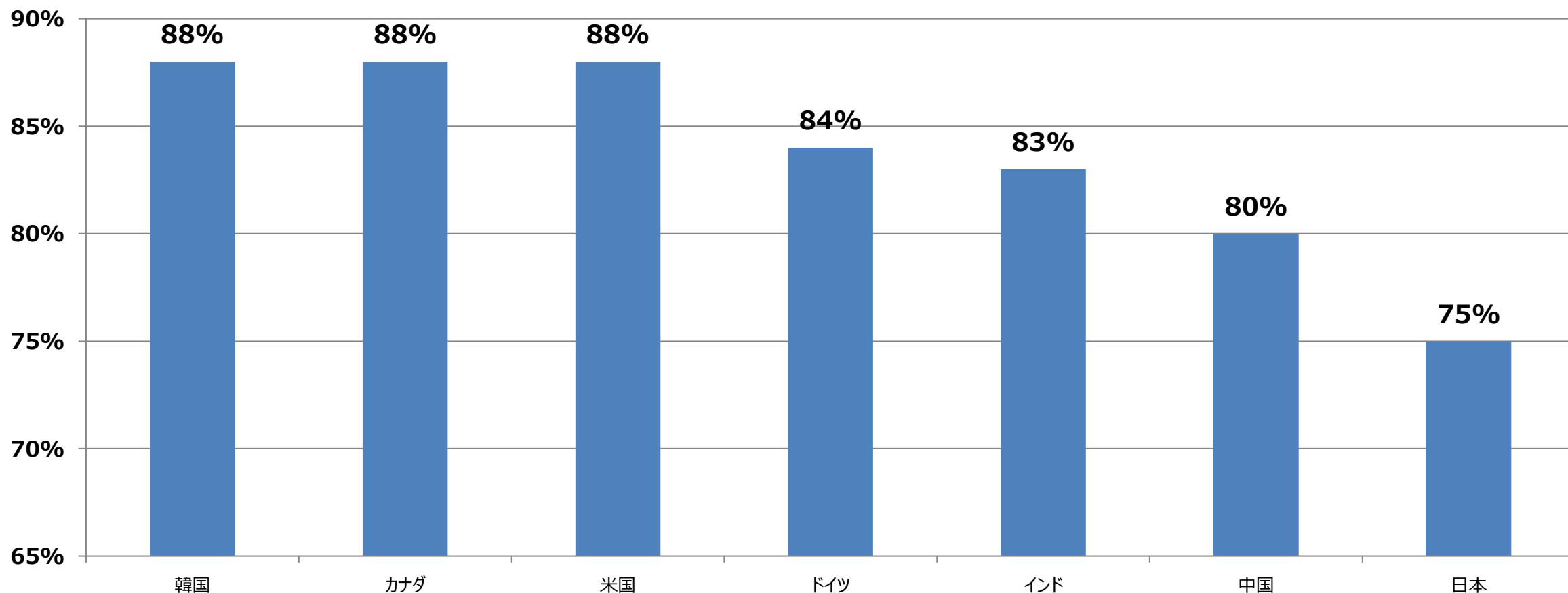
FINTECH



金融業

テクノロジーに関する世界の経営層の意識1

時代遅れとなる恐怖(Fear of Becoming Obsolete)を感じるか

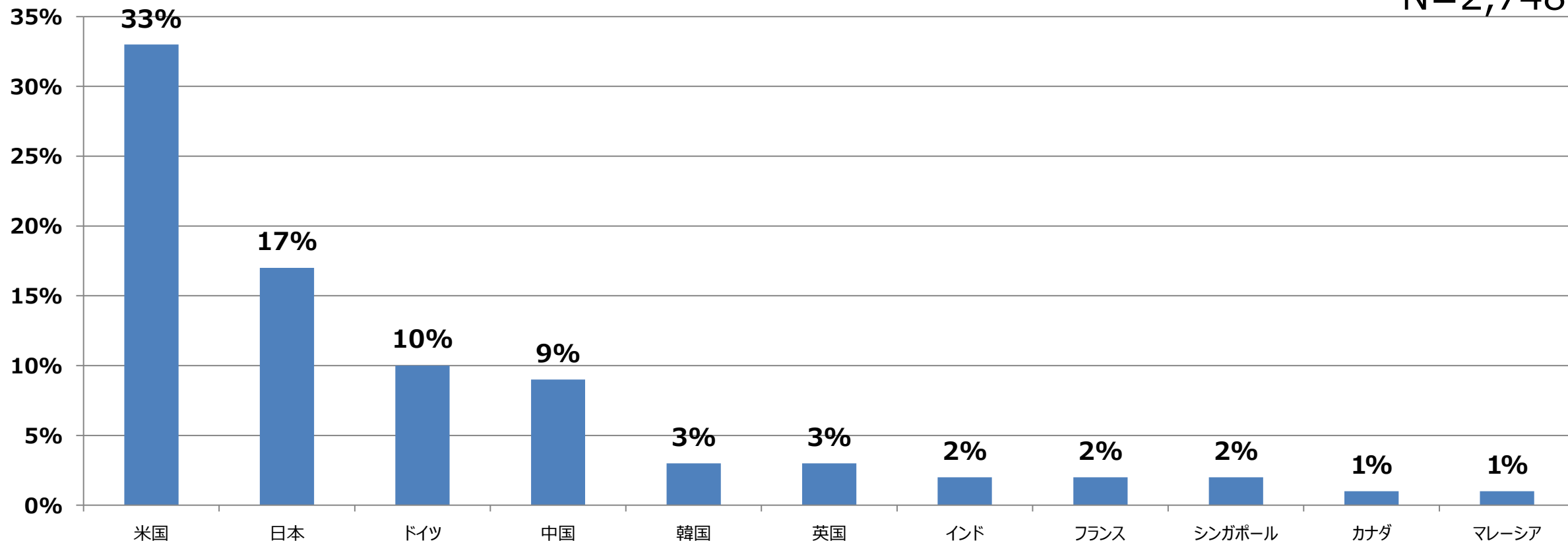


出典：GEグローバルイノベーションバロメーターより抜粋

テクノロジーに関する世界の経営層の意識2

どの国がイノベーションチャンピオンと考えるか

N=2,748



出典：GEグローバルイノベーションバロメーターより抜粋

これまでの人材育成を省みる



どのような人材育成をしてきたか

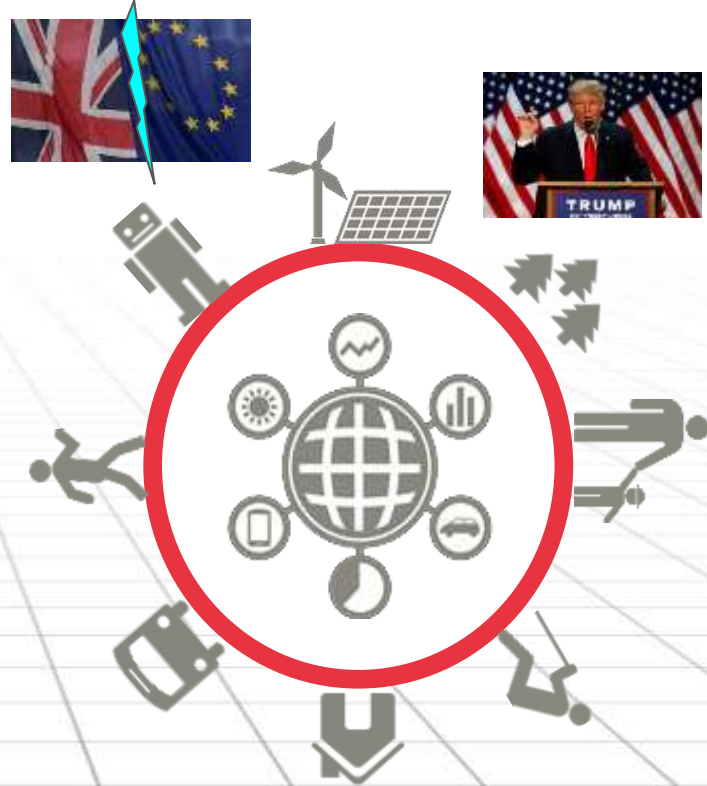
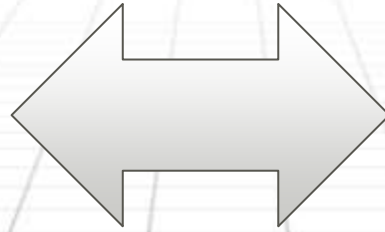
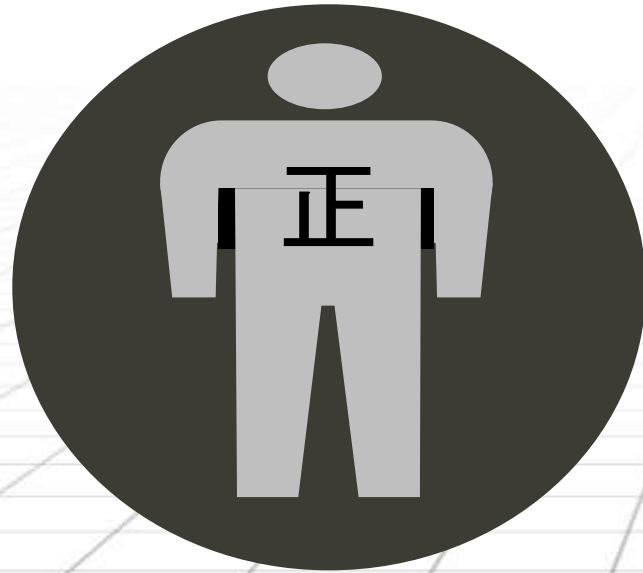
真理や原理
に基づく知識

正しい知識を
身に付ける

良心や信条
で生きる行動

人材育成を支える基本価値は
「**正しさ**」にあった

「正しさ」を持ちつつ現実と付き合う



「正しさ」が建前と知りつつ、
懐疑する力と、先を見据える想像力

企業に必要な人材像とは

- ・ 正しく業務遂行できる
- ・ 正しい知識を習得



従 来

- ・ 懐疑の視点で考える
- ・ 対話を通じて判断する
- ・ 想像力と創造力



現 在 ・ 将 来

今後、企業が求める人材とは

本当か？と
疑ってみる

基本に
正しさ
あり

対話重視で
思慮する

創造する
(イノベーテ
ィブ)

正しさの
活用法を
想像する

eラーニングによる学びの変革

「正しい」知識 で 現実直視 せよ！

「正しさ」と 懐疑の視点 を！

受講型 から コミュニティ対話 を！

知識受入 から 活用法を創造 へ！

「正しさ」が真の解ではない！

eラーニング マーケット

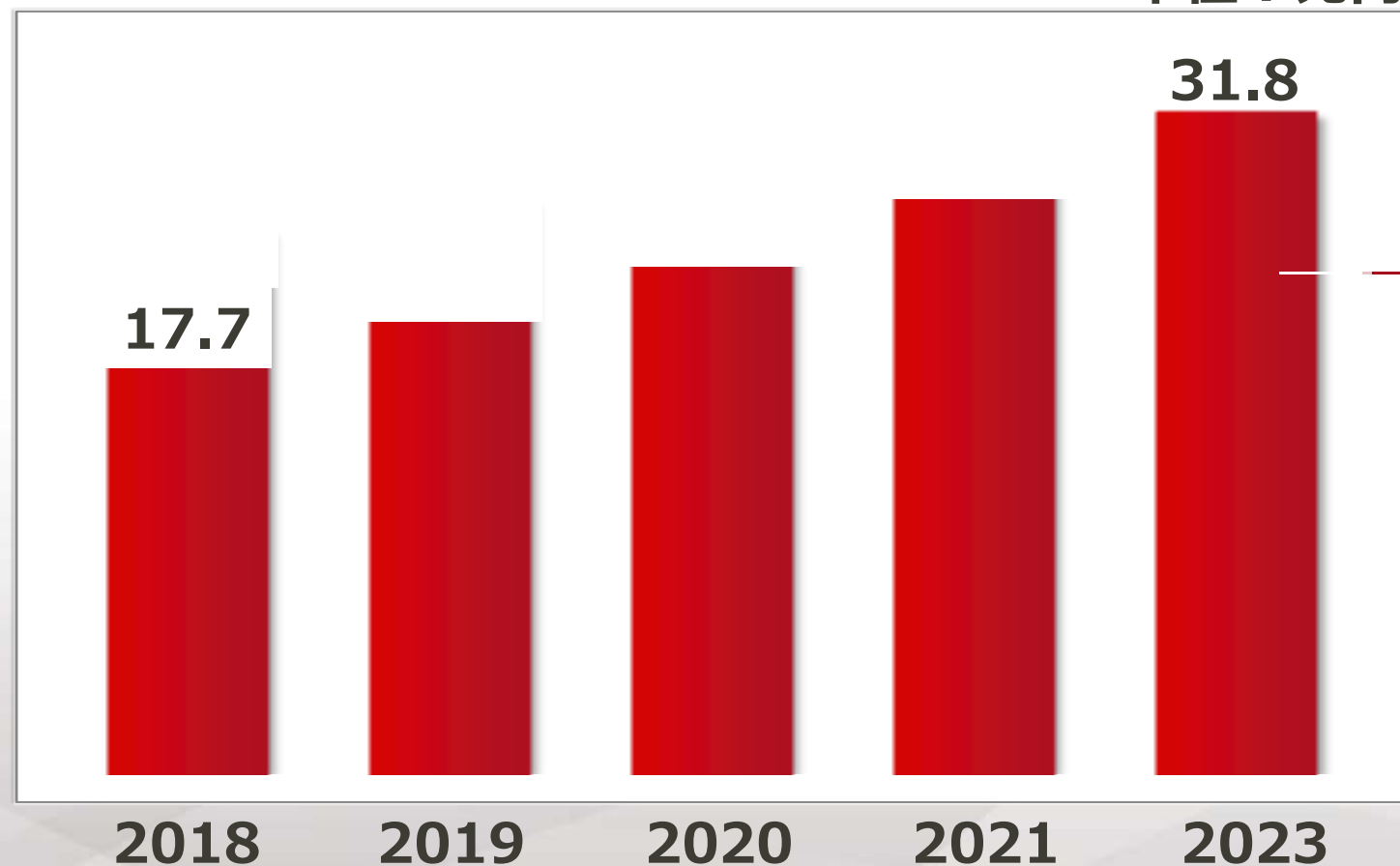


特定非営利活動法人

日本イーラーニングコンソシアム

グローバルeラーニング市場の伸び

単位：兆円



年間成長率10.3%

世界のeラーニングマーケット全体
前年のレポートでは伸長率は5%

出典：Docebo「E-Learning Trends 2019」より



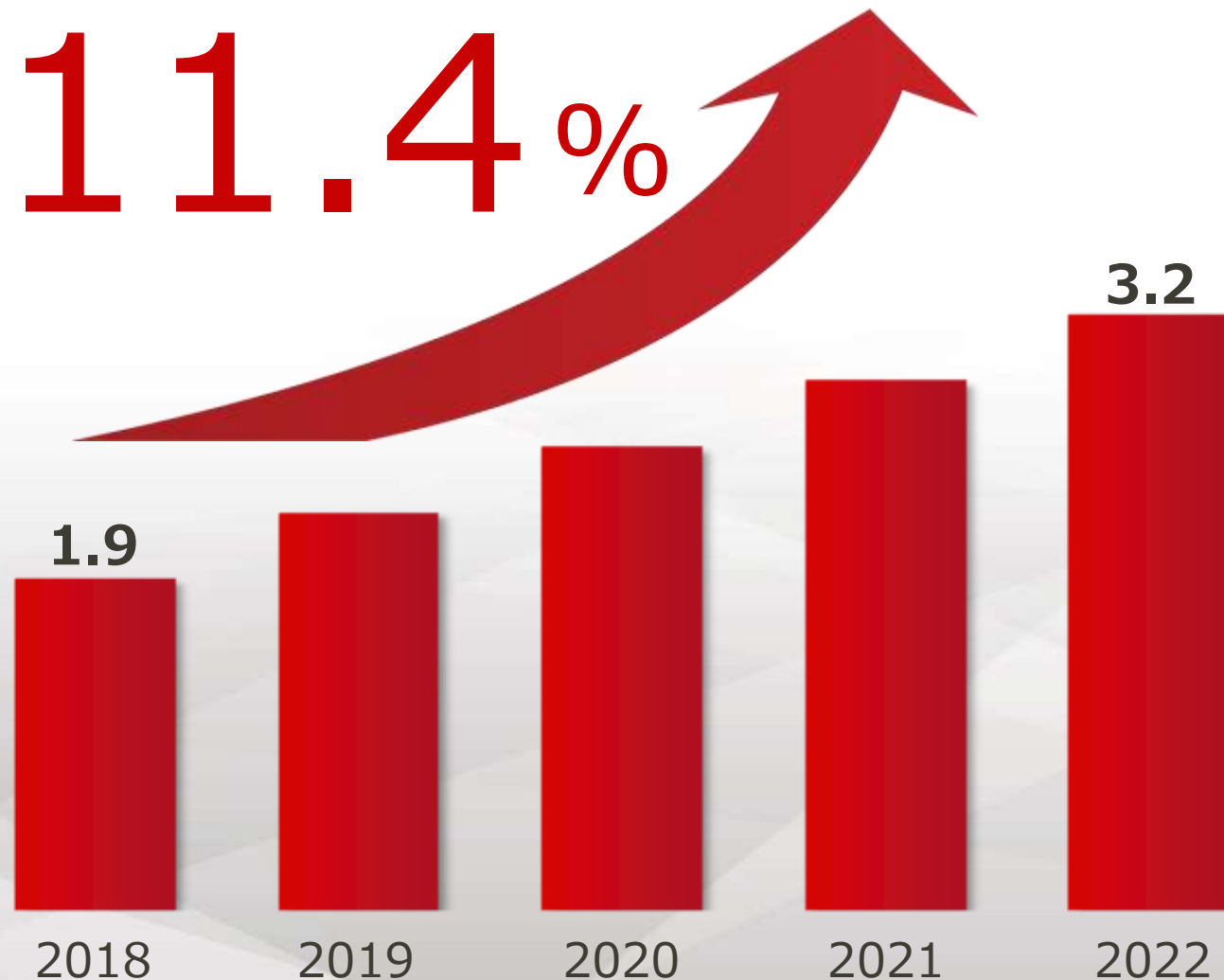
特定非営利活動法人

日本イーラーニングコンソシアム

企業 eラーニングの市場

年平均成長率

11.4%



2022年
3.2兆円へ



出典: Docebo「E-Learning Trends 2019」より

まさかの出来事

2020. 4. 7
「緊急事態宣言」発令

コロナ禍における社会状況

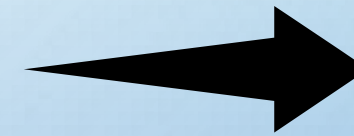
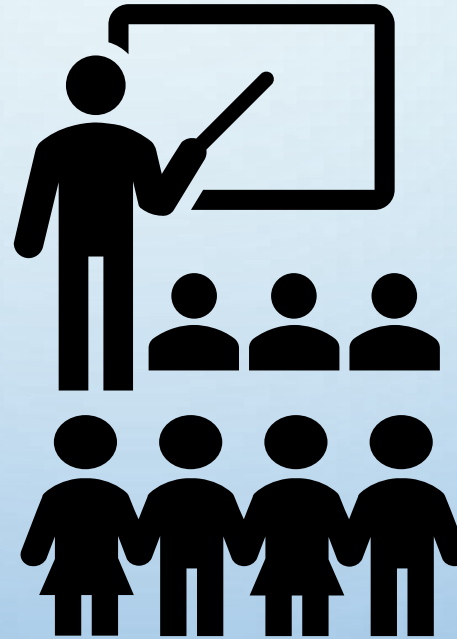
テレワークで、通勤定期券は廃止

入社式、会議はオンラインで

新人研修は自宅で eラーニング

トランプ大統領は・・・

集合研修からeラーニングへ



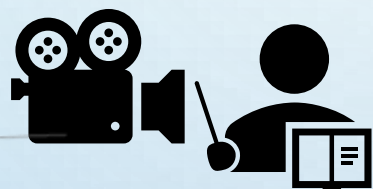
Crisis Shapes History

危機が歴史を作る

突貫工事によるeラーニングでは

ネット上にある学習コンテンツ

講義を撮影
した映像



確認テスト



学習者



学習者

コロナ禍において 有識者は何を語ったのか

2020.5.19 NHK ニュースウォッチ9

熊本大学

教授システム学 研究センター長
鈴木克明 教授

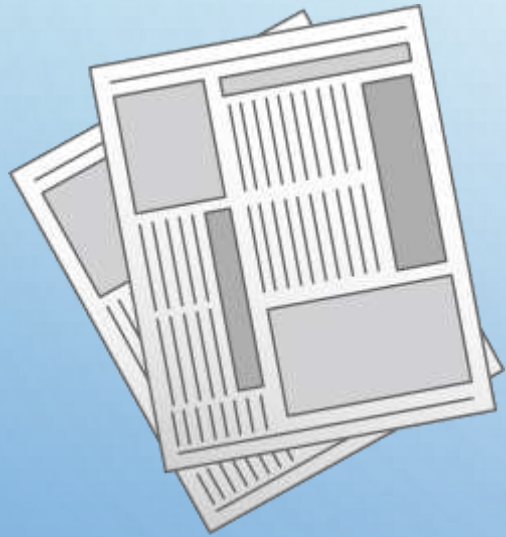


今までの授業をそっくり同じものをオンラインで展開しようということとは効果的でもなく、芸術的でもない。

むしろ、違うカタチでの教育をどうやって確保していくのか、発想の転換が必要

2020.6.26 読売新聞 「新型コロナ 読売提言」

東京工業大名誉教授
赤堀侃司氏



小学校低学年は、年齢的に遠隔授業だけでは学習が成立しない。

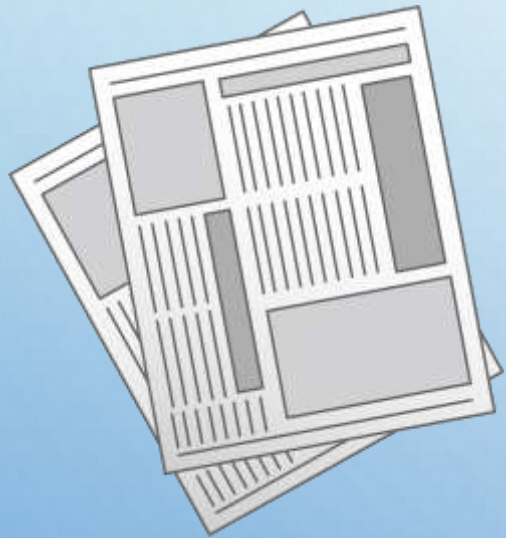
体を動かし、実物を見て、触って感じるという体験が不可欠だ。

動植物の画像を見ても、生き物とは何か、という概念を蓄積できない。

【新型コロナ 読売提言 識者に聞く4】より抜粋

2020.8.21 読売新聞「語る コロナと政治」

前早稲田大学総長
鎌田薫氏



一方的に映像を流すのではなく、
質問を受け付ける態勢を合わせて
整える。

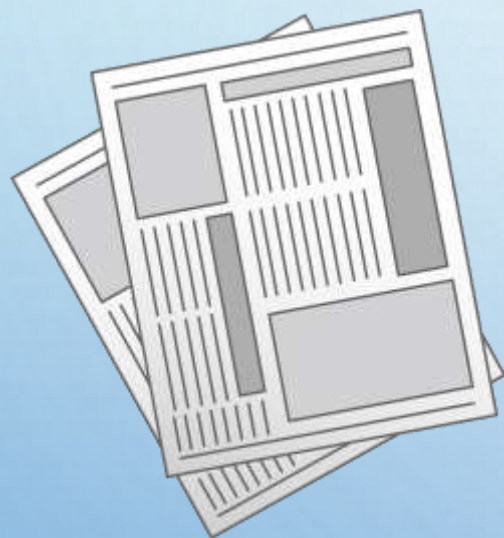
双方向性を確保する、SNS
などで議論する場を設ける。

オンライン講座で、教師を交えて
議論することで、理解を深める。

【語る コロナと政治】より抜粋

2020.9.7 日本経済新聞 「Biz Frontier」

日本経済新聞



スマートフォンやタブレットを活用した個別の**実践型研修**に軸足が移っている。

「新常態（ニューノーマル）」を見据え、オンラインを駆使した「**学び方改革**」が始まった。

【Biz Frontier 社員の学び方改革】より抜粋

有識者からの導き

1 講習（講義）をそっくり映像化してもダメ

2 体得し、経験し知識を獲得せよ

3 議論の場、人と繋がる場を用意せよ

4 スマホ（ICT）活用し実践的な課題解決に迫れ

コロナ禍でどうやったの？

新入社員研修の事例から

講習をマイクロコンテンツ化しスマホで学習



アイコン



ログイン画面



トップ画面

学習画面 (動画視聴、テスト問題)

```
public static void main(String[] args) {  
    // main()メソッドの処理を記述します。  
}
```

```
class Settings {  
    public static void main()  
}
```



出欠確認による集合研修ライクの演出

KnowledgeC@fe

PHOTO 田中 一部 様 ログアウト

マイページ

入退室管理 報告書管理 KnowledgeC@feへ

入退室時刻登録

2020/03/06(Fri.) 09:16:40

Start Finish

入退室情報一覧

2020年03月

年月日	曜日	休日	Start	Finish	種別	エラー理由・本人申請
2020/03/01	Sun.	休				
2020/03/02	Mon.		08:45	18:07		
2020/03/03	Tue.		08:40	17:31		
2020/03/04	Wed.		08:45	18:11		
2020/03/05	Thu.		08:37	17:47		
2020/03/06	Fri.		08:49	14:25	早退	法事で帰省するため、早退させていただきます。
2020/03/07	Sat.	休				
2020/03/08	Sun.	休				
2020/03/09	Mon.		09:29	17:30	遅刻	本人より申請；帰省から戻る飛行機予約が取れず、3/9(月)朝の便となるため、遅刻する(3/7 事務局)
2020/03/10	Tue.		08:48	18:07		
2020/03/11	Wed.				エラー	エラー理由参照
2020/03/12	Thu.		08:48	16:28	エラー	エラー理由申請
2020/03/13	Fri.		08:40	17:30		
2020/03/14	Sat.	休				

打刻機能

1ヵ月ごとの
出退勤管理
機能

管理者から見える出欠状況

入退室情報一覧

検索結果：16件中 1件目～ 16件目表示 表示件数：20

■全選択	入力日	曜日	クラス名	氏名	所属グループ名	Start	Finish	種別	エラー理由	事務局追記	更新日時
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	小林 凜	営業部	08:25					2020/03/13 08:25:10
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	山崎 高子	営業部	10:34		遅刻	通勤途中で貧血となり 駅で休憩していたため。田中)	遅刻4回目(事務局 田中)	2020/03/13 10:34:30
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	山田 明子	営業部	08:11					2020/03/13 08:11:56
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	斉藤 四朗	営業部						
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	鈴木 花子	営業部	08:26					2020/03/13 08:26:00
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	高田 京子	営業部	08:33					2020/03/13 08:33:09
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	田中 一郎	営業部			欠席	起床時の検温で、発熱 (37.7度)があったため 電話対応者(事務局 田中) (3/13 事務局受)	電話対応者(事務局 田中)	2020/03/13 10:08:34
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	高木 二郎	営業部	08:18					2020/03/13 08:18:49
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	高橋 三郎	営業部	08:14					2020/03/13 08:14:39
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	支店クラス	佐藤 五郎	営業部	08:31					2020/03/13 08:31:30
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.		坂本 九郎	営業部						
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.		山下 隆志	営業部						
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.		山口 正義	営業部						2020/03/14 13:08:34
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.		石川 祥子	営業部						

未出勤の確認

選択した入退室情報をダウンロード

選択した入退室情報を印刷

SJIS-win UTF-8 (BOM)

担当する部下や、
クラス受講者の
日ごとの出退勤一覧

日ごとに出退勤の
一覧を出力
CSVやPDF形式で

報告書（日報、月報）を相互に評価

KnowledgeC@fe

山口 正義様

ログアウト

マイページ

グループ管理者

講師

入退室管理

報告書管理

KnowledgeC@feへ

グループ管理者トップ > 報告書管理 > 報告書参照

報告書参照

報告書参照

東日本クラス研修受講報告書

状態: コメント確認済

この日報は、新人研修の最終期申請に毎日作成する報告書です。
配属にあたっての心構え、配属先での業務を前提としたルールなどについて学習します。
日報作成は、毎日、退社前の15分間で作成し提出してから退社してください。
以下の日報の目的を理解し、ご自身の成長を意識して報告を行ってください。
【日報作成の目的】
1. 報告書作成訓練
2. 現状の進捗を踏まえた今後の対策

報告日 2020/03/13 (Fri.)

提出日 2020/03/14 (Sat.)

報告者 高木 二郎 (ユーザID: u03)

クラス 東日本クラス (クラスコード: east)

受講番号

添付ファイル

私の目標設定を更新した場合は、添付してください。
私の目標設定_高木二郎.xlsx 添付ファイルは1ファイルのみ (5MBまで)

報告書へのコメント

[残/最大: 400 / 400]

グループワークでは、メンバーの意見を取り入れた議論を通して、研修の目標達成に貢献している様子が見られました。
外国籍メンバーの言葉の壁についても、翻訳ツールを活用して対応できていました。このノウハウは、他のチームにも共有して欲しいと思います。

入力終了

コメント欄閉鎖

新しいコメント追加

ダウンロード

印刷

報告書一覧へ戻る

SJIS-win UTF-8(BOM)

受講者が提出した
報告書

上司、担任、講師に
よるコメント入力欄
※何人でもコメント欄
追加可能

報告書の状態を管理し対応する

報告書一覧

2020年 03月 13日

< Previous Next >

検索結果：10件中 1件目～ 10件目表示 表示件数：20

■全選択	年月日	曜日	クラス名	氏名	所属名	状態	更新日時
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	小林 凜	営業部	未入力	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	山崎 高子	営業部	提出済	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	山田 明子	営業部	提出確認済み	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	斉藤 四朗	営業部	提出済	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	鈴木 花子	営業部	一時保存中	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	西日本クラス	高田 京子	営業部	コメント確認済	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	田中 一郎	営業部	コメント未確認	2020/03/14 05:30:16
<input checked="" type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	高木 二郎	営業部	提出済	2020/03/14 13:11:45
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	東日本クラス	高橋 三郎	営業部	コメント確認済	2020/03/14 05:30:16
<input type="checkbox"/>	2020/03/13	Fri.	支店クラス	佐藤 五郎	営業部	提出済	2020/03/14 05:30:16

提出された報告書の
状態を確認

- ・提出したのか
- ・コメント返したか
- ・コメント確認したか

参照・コメント入力

提出確認済にする

選択した報告書をダウンロード

選択した報告書を印刷

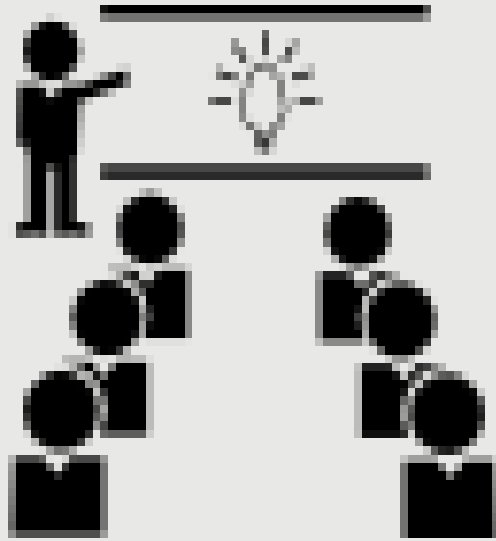
SJIS-win UTF-8(BOM)

報告書を一覧を出力
CSVやPDF形式で

アフターコロナ／ウィズコロナ のオンライン研修

エデュケーション(教育)から ラーニング(学習)へ

エデュケーション



先生から教わる、先生が教える
受け身

置換え
でなく

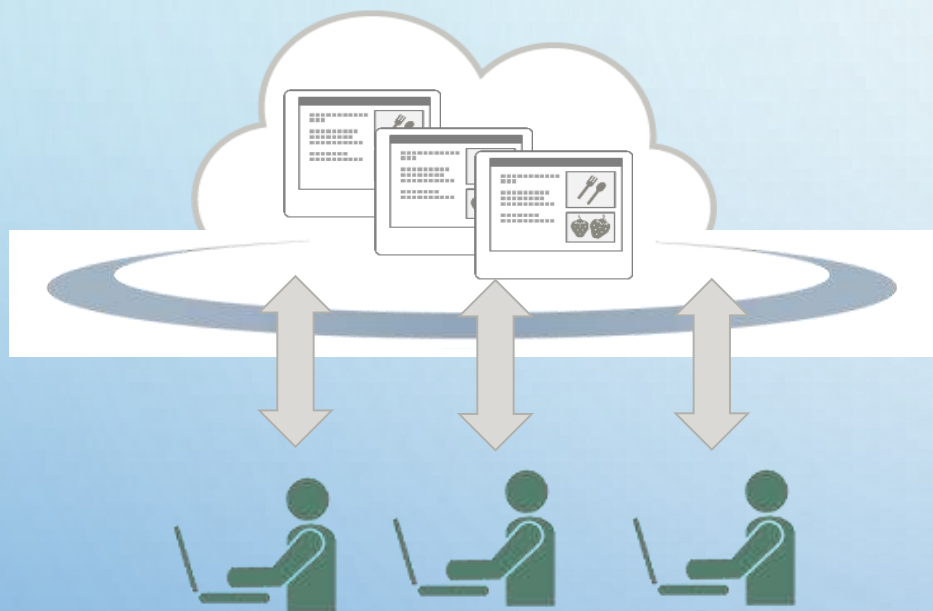
ラーニング



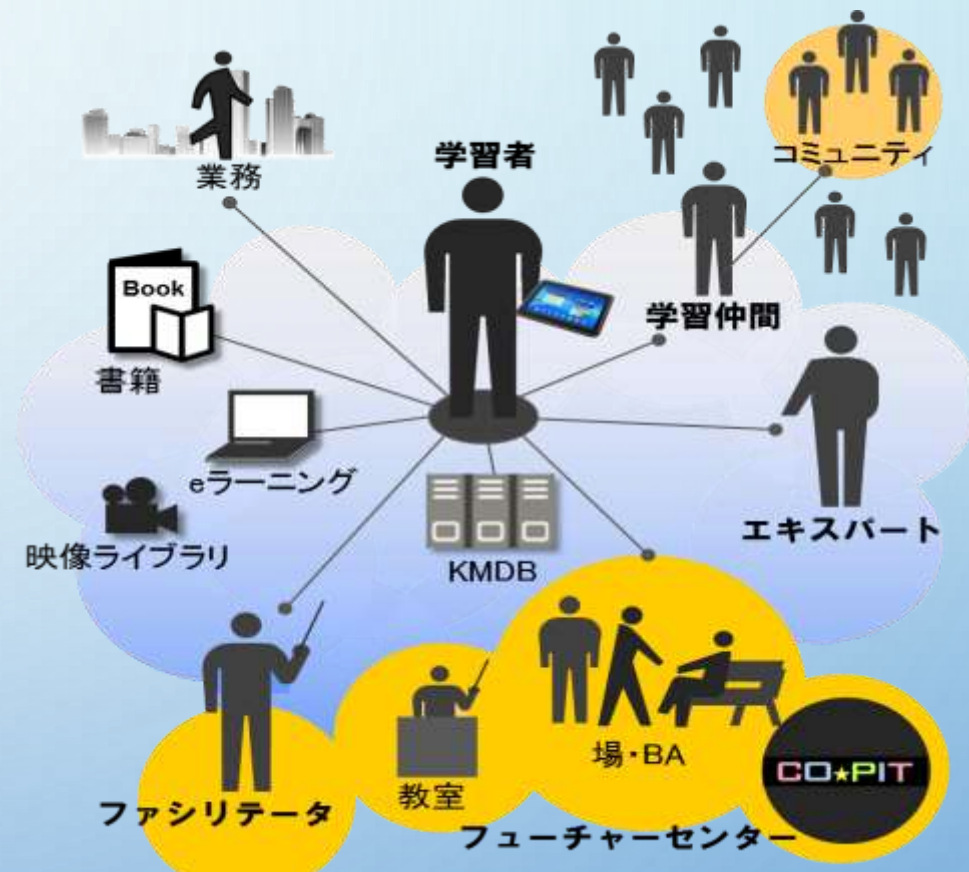
探す、調べる、つながる、聴く
自ら獲得する

LMSからラーニングプラットフォームへ

用意された学習コンテンツによる学び



- ・用意されたコンテンツ群から学ぶ
- ・コンテンツを選び、学ぶ
- ・テストで採点
- ・**フォーマル**な学びを実施



- ・学習者中心に**インフォーマル**ラーニング
- ・**経験をし、蓄積し、交換し合い、つながる場**へ

コルブの経験学習論(鈴木克明教授によるご指導)

経験や体験をすることで自分なりの理論を紡ぐのが学習



eラーニング専門家の の育成



特定非営利活動法人

日本イーラーニングコンソシアム

どうして座学のように盛りあがらない？
どうして退屈なコンテンツといわれる？
どうしてシステムがうまく使えない？



**eラーニングプロフェッショナルに
求められる専門知識、スキル**

eラーニングプロフェッショナル(eLP)資格制度



e-Learning Professional

ICT時代の教育専門家はニューテクノロジーそのものではなく、ニューテクノロジーが学習者の可能性をどう変えるのかについて知らなければならない。

Joel Greenberg, UK Open University

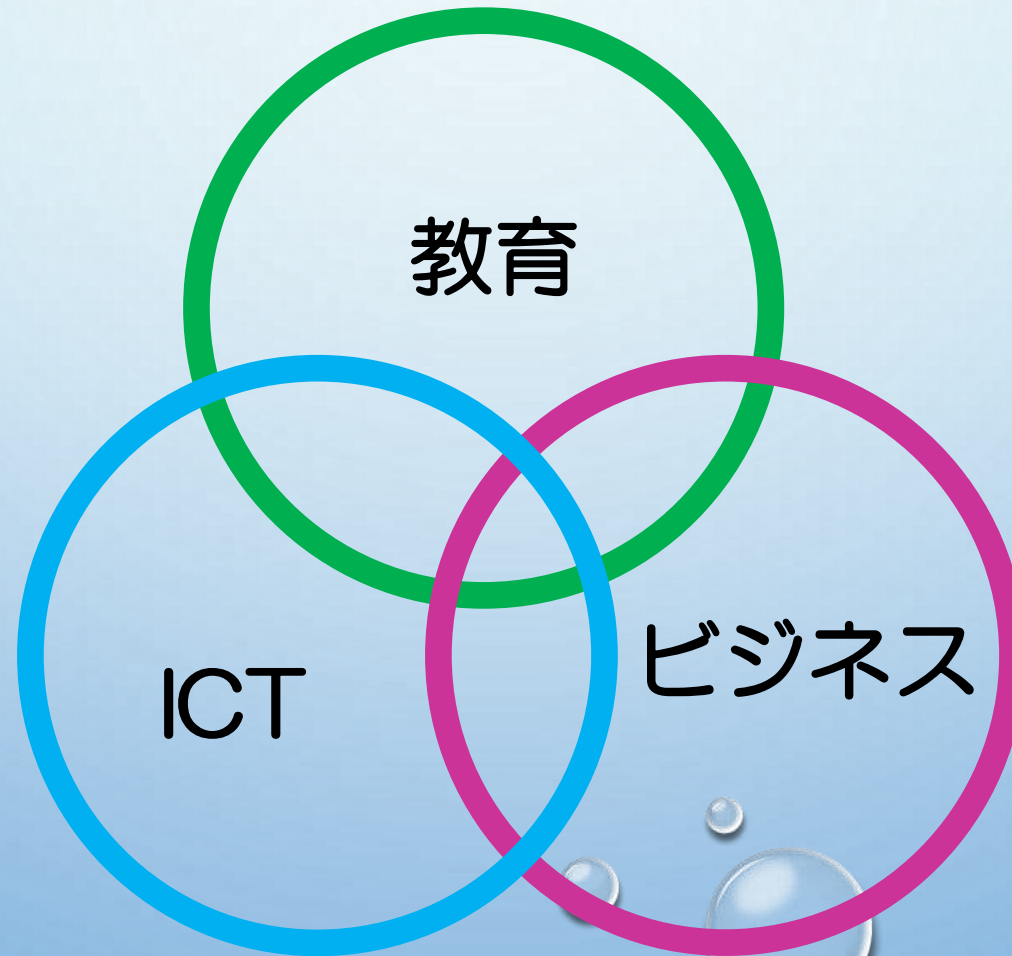
7つの資格取得のためのeラーニングコースを、eLC有識者及び熊本大学大学院教授システム学専攻との連携で提供

資格取得者数

合計 1, 858名 (延べ人数)

2021年2月時点

eラーニングプロフェッショナルの守備範囲





eLP ベーシック

「eLPベーシック資格」とは、すべてのeラーニングプロフェッショナル資格の入口にあたる資格であり、マネージャー、エキスパート、コンサルタントなどの上位資格を取得するための必須となる資格です。

対象者

- 初めてeラーニングに関連する業務を担当することになった企業・教育機関・公共機関の方
- eラーニングに興味がある、あるいは関連する業務の経験が多少あるが、eラーニングの基礎知識を体系的に学んだことのない方
- eラーニング関連ベンダーの新入社員、eラーニングを提供する高等教育機関の新人職員

【学習形態】 eラーニング 【学習期間】 約2ヶ月 【学習時間】 約12時間
【受講費用】 55,000円 (eLC会員割引価格:40,000円)

コース内容

社会人教育とeラーニング	インターネット入門
eラーニングプロジェクト入門	SCORM入門
インストラクショナルデザイン入門 (ID)	eラーニングのコンプライアンス
学習心理学入門	修了試験



eLP プロフェッショナル

「eLPベーシック資格」を取得された方が目指す上位の専門資格です。eラーニング・ユーザー向けの3資格と、ベンダー向けの3資格、共通1資格の計7つの資格で構成されています。



7つの資格取得に必要なコース
全28コース

マネージャー

ユーザー向け 必須コース数 6

主に企業等における教育を実施する組織や高等教育機関等において、ICT活用の人材開発プロジェクトをマネジメントできる知識と技術を有する。

エキスパート

ユーザー向け 必須コース数 11

主に企業等における教育を実施する組織や高等教育機関等において、ICT活用の人材開発プロジェクトを遂行できる知識と技術を有します。

チューター

ユーザー向け 必須コース数 9

主に企業等における教育を実施する組織や高等教育機関等において、eラーニング学習者の支援を遂行できる知識と技術を有します。

SCORM技術者

共通 必須コース数 1

ベンダ、ユーザを問わず、SCORM規格に関連するすべての知識と技術を有します。*集合研修による「SCORM技術者講習会」を年2回開催。

コンサルタント

ベンダー向け 必須コース数 9

主に人材育成ソリューションを提案するベンダにおいて、eラーニングを実施する組織のeラーニング導入事業を支援できる知識と技術を有します。

ラーニングデザイナー

ベンダー向け 必須コース数 17

主に人材育成ソリューションを提案するベンダにおいて、受注したソリューションの構築プロジェクトを推進できる知識と技術を有します。

コンテンツクリエイター

ベンダー向け 必須コース数 10

主に人材育成ソリューションを提案するベンダにおいて、学習効果を高めるコンテンツを制作できる知識と技術を有します。

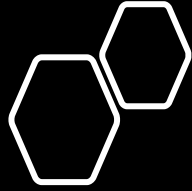
*受講費用などの詳細は各資格毎に異なります。
詳細につきましては、Webサイトをご参照ください。
*必須コースをすべて修了した後に修了課題を提出していただきます。

分析と目標設定	研修企画	eラーニングシステム構築	導入プロジェクト遂行	コンテンツ制作	学習	評価
6コース	6コース	2コース	1コース	6コース	5コース	2コース
コンサルタントスキル/ eラーニング戦略立案技法 など	評価ID/プロジェクト マネジメント戦略 など	LMS構築/ LMS運用技法	eラーニング導入 プロジェクト管理技法	Webユーザビリティ構築/ Webサイト構築技法 など	コミュニケーション技法/ メンタリング技法 など	コースアセスメント技法/ 学習者評価



特定非営利活動法人

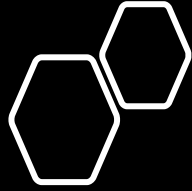
日本イーラーニングコンソシアム



eLPベーシック

対象者

- 初めてeラーニング関連の業務を担当することになった企業・教育機関・公共機関の方
- eラーニングの基礎知識を体系的に学んだことのない方
- eラーニング関連ベンダーの新入社員、eラーニングを提供する高等教育機関の新人職員



eLPベーシック

ゴール

- eラーニングの企画・開発・運用に必要な知識とスキル、プロセスが説明できる。
- eラーニングの魅力と効果、従来のラーニングとの違いを示すことができる。
- 高品質なeラーニングを実現するための最新の技術、情報モラルを知ることができる。

『eLPベーシック』で学べる225のテーマ

[1] 「インストラクショナルデザイン (ID) 入門」 (120分)
 インストラクショナルデザイン (ID) /ADDIEモデル/カークパトリックの4段階評価/ROI分析/メリルのID第一原理 (5つ星の)
 /カニエの9教授事象/ARCS動機づけモデル/形成的評価/総括的評価/メーカーの3つの質問

[2] 「学習心理学入門」 (140分)
 行動分析学/行動依存性/強化・弱化学/好子・嫌子/ブレマックの法則/シェイピング (行動形成) /認知心理学/精緻化と体制化
 キーマ/天秤問題 (Siegler) /Wason課題/不良構造化問題 (ill-structured) /メタ認知/アンカード/インストラクション/秋
 学習論/正統的周辺参加/アフォーダンス/実践コミュニティ/真性の文化/認知的徒弟制/ゴールベースド/シナリオ (GBS) /
 とGBS

[3] 「eラーニング標準化入門」 (100分)
 技術標準化/eラーニング標準化の対象/eラーニングのサイクル/コンテンツ標準規格SCORM/eラーニングの形態とLMSの機能
 による学習機能/コンテンツ・LMSの構造化・標準化/WBTの構造化・標準化/SCORM1.2とSCORM2004/コンテンツアグリ
 ン/マニフェストファイル/ランタイム環境 (RTE) /シーケンシング/LMSとSCO/SCORM2004動作例: プリテスト/
 SCORM2004動作例: 繰り返し/SCORM適合LMS/Moodle/xAPI (Experience API) /CMIS/Caliper Analytics/API

[4] 「ラーニングテクノロジー入門」 (100分)
 ラーニングテクノロジーの歴史/CAI/eラーニング/モバイルラーニング/インターネット/WWW/URLとHTTP/HTML/
 リ/クラウドコンピューティング/メディアコンテンツ/ゲーミフィケーション/AR・VR/ビッグデータ/AI (人工知能) /
 ワーク/セキュリティ/ラーニングテクノロジーの形態/独習型: 一方向型と双方向型/講義型: リアルタイム型とオンデマ
 ループ学習型: リアルタイム学習型とオンライン型/LMS (学習管理システム) の役割/教材作成: 解説型教材と演習型教材/
 ンテンツ/Webアプリ/eポートフォリオ/ラーニングアナリティクス/LRS (Learning Record Store) /MOOC

[5] 「人材育成とeラーニング」 (60分)
 eラーニングの基本/典型的なeラーニングシステム/社会通念教育はeラーニングの定義/eラーニングの用途 (会社) /e
 用途 (学校) /注目される最近のトレンド/モバイルラーニング/反転学習/eラーニングの課題/集合教育と比較したe
 の基本/社会人の学びの基本認識/ブレディッドラーニング/社会の進展と学びの変化/これまでの学び (Learning1/
 Learning1.0とLearning2.0/社会的構成主義/時代は今、非構造化情報が生徒/Agileなインフォーマルラーニングの
 フォーマルラーニングの中日は実務道徳/Learning2.0タイプのメディア構成/人材開発のフレームワーク/日本のeラ
 日本でのeラーニングの歴史/知恵社会のワークスタイル/学習者中心の教育/アンドラゴジー (成人教育学) /Le
 Work Place Learning /戦略的なeラーニング導入/戦略的教育という考え方/教育のPDCA/メディアに関するジェ
 /ジェネレーションY (Y層) /ジェネレーションZ (Z層) /人種の違う時代がやってくる/理解しやすいキャッチア
 グ Lessons Learned

[6] 「eラーニングプロジェクト入門」 (120分)
 eラーニング構成要素とモデル/eラーニング学習モード/eラーニングプロジェクトの特徴/eラーニング戦略と
 ラーニングプロジェクト成功の秘訣/eラーニングプロジェクトの基礎/eラーニングプロジェクトとの関わり
 調達方法/対象分野と成果対象/eラーニングプロジェクトの目的/知識分析とフレームワーク/定型業務と非
 フォーマル) 障害要因/パフォーマンス関係図 (GAP分析) /GAP分析に基づくソリューション選択/eラ
 ニング/リビューチェーン/評価例/教育評価手法の実施例/eラーニングプロジェクト評価全体像/「システ
 ッ」/LMS機能拡張による現状課題/グローバルLMS製品の動向/グローバルLMS製品の動向/破綻的イ
 プライン: サービス拡張/LRMS: SRMモデルを適用したLMS/個別対応メンタリングの必要性・重要性
 /エンジニアリング成熟度/「品質」と「コスト」のスイートスポット/「良いコンテンツ」の学習モ
 技術/コンテンツ開発の課題と動向/コンテンツ開発体制の動向/ラーニング/オブジェクト開発/IT
 ITサービスの特性/成功のスパイラル

[7] 「eラーニングのコンプライアンス」 (30分)
 eラーニング素材に関する権利の概要/eラーニングコンテンツ素材の作成/eラーニング素材
 の権利/肖像に関する権利/パブリシティ権/著作権とは/著作権の対象/著作権の発生と
 の救済/刑事的/民事的措置/著作権の内容/著作人格権/公表権/氏名表示権/同一
 権/上映権/翻訳/翻案権/著作権継承権/著作物の利用/著作権の制限規定/私的使用
 機関における複製/試験問題への利用/引用/許諾による利用/音楽の著作物の利用/
 譲渡による利用/著作権以外の権利にかかる利用/個人情報/個人情報の利用/テ
 ン情報/表現の自由との関係/自分のコンテンツを守る/コンテンツの安全な提供
 なセキュリティの確保/技術的なセキュリティの確保/人間的セキュリティの確

[8] 「高等教育におけるeラーニング」 (60分)
 日本の高等教育におけるICT活用の実態/インフラとツール整備/学習
 イン型授業の種類/eラーニングの種類別の導入/関連するモデル/
 /学習環境のデザイン原則/学習教育と情報化に関するモデル/
 のか? /大学でのeラーニング普及のための取り組み/日本

ARCSモデル <ID入門>

ビデオコンテンツ

<ラーニングテクノロジー入門>

音楽の著作物の利用

<eラーニングのコンプライアンス>

モバイルラーニング

<人材育成とeラーニング>

システム・コンテンツの調達法

<eラーニングプロジェクト入門>

最後に

菅総理大臣の目指す社会像

自助・共助・公助

アフターコロナ／ウィズコロナのオンライン研修

自学・共学・向学

ご清聴ありがとうございました

日本イーラーニングコンソシアム

ご遠慮なくご相談下さい

<https://www.elc.or.jp>



特定非営利活動法人

日本イーラーニングコンソシアム